



PORSCHE



2019年ジュネーブモーターシ ョーにおけるポルシェ

プレスキット

目次

ポルシェ、2019年ジュネーブモーターショーに出展

新型911カブリオレ、718T、マカンSがジュネーブでデビュー	3
オープントップのシーズン開幕に向けて、新型911カブリオレが登場	5
新型ポルシェ718T - そぎ落としした装備で最大限のドライビングプレジャーを提供	8
新型マカンS：最新のコネクティビティシステム、リファインされたデザイン、さらに充実した機能	11

911カレラS カブリオレ:燃料消費量(複合)9.1リッター/100km、CO₂排出量(複合)208g/km、
911カレラ4S カブリオレ:燃料消費量(複合)9.0リッター/100km、CO₂排出量(複合)207g/km
718ボクスターT:燃料消費量(複合)8.2~7.9リッター/100km、CO₂排出量(複合)187~181g/km
718ケイマンT:燃料消費量(複合)8.1~7.9リッター/100km、CO₂排出量(複合)186~180g/km
マカン:燃料消費量(複合)8.1リッター/100km、CO₂排出量(複合)185g/km
マカンS:燃料消費量(複合)8.9リッター/100km、CO₂排出量(複合)204g/km

燃料消費量およびCO₂排出量の数値は、新しい「乗用車等の国際調和排出ガス・燃費試験法」(WLTP)を使用して計算されました。ここから計算されたNEDCの数値は当分の間継続して明記されます。これらの数値は、これまで使用されてきたNEDC測定手順に基づいて計算された数値と比較することはできません。

新型乗用車の正式な燃料消費量および詳しいCO₂排出量の詳細については、「新型乗用車の燃料消費量、CO₂排出量および電力消費率に関するガイドライン」を参照してください。これは、すべての正規販売店およびDeutsche Automobil Treuhand GmbH (DAT)から無料で入手することができます。

ポルシェ、2019年ジュネーブモーターショーに出展

新型911カブリオレ、718T、マカンSがジュネーブでデビュー

ポルシェは4か月前にロサンゼルスで新型911を発表しました。8世代目を数えるこの時代を超越したスポーツカーは、パワーと速さが格段にアップし、デジタル化が進みました。同様なアプローチが次の大きなプレミアでも明らかになります。第89回ジュネーブモーターショーにおいて、春の訪れと時を同じくして、新型911カブリオレが初披露されます。このオープントップの911においても、ポルシェはその象徴的なモデルの慎重かつ着実な開発を続け、運動性能と効率性、先進性を向上させています。Sモデルは331kW(450PS)のツインターボエンジンを搭載し、最高速度は300km/hに達し、0-100km/h加速タイムは4秒を切ります。新型8速デュアルクラッチトランスミッションとポルシェ ウェットモードが、濡れた路面でさらに安全なハンドリングを実現します。

そのデザインは、歴代911モデルから採り入れたクラシックな要素にモダンなアレンジを加えたもので、新型911カブリオレは、創業後の最初のモデルにまで遡る長い歴史を持つポルシェのオープントップモデルの最新版です。このボディスタイルが911ファミリーに迎え入れられたのは30年以上も前で、以来、今日に至るまでカブリオレは独特の濃密なドライビングエクスペリエンスの象徴であり続けてきました。今回、ソフトトップはさらに進化して軽量になり、新開発の油圧モーターによって、わずか12秒で格納できるようになりました。また、50km/hの速度で走行中にも、同じ素早さで閉じることも可能です。大部分がマグネシウム合金で作られた高性能なソフトトップ構造体(これまで同様、ポルシェの内製品)が、高速走行時のルーフの膨らみを抑えます。

ポルシェがジュネーブショーで発表するもうひとつの目玉が718Tです。これはボクスターおよびケイマンの新しいツーリングバージョンで、4気筒エンジンの220kW(300PS)のパワーと、最先端のダイナミックコンポーネント(スポーツクロノ パッケージやPASMスポーツシャシーなど)に、20mm低められたボディを組み合わせています。またこのモデルはダイナミックギアボックスマウントのPADM、および機械式リアディファレンシャルロック付きポルシェトルクベクトリングを標準装備しています。これらの機能が2リッターのボクサーエンジンで利用可能になるのは今回が初めてです。2つの装備を得て、この2シータースポーツカーの持つハイパフォーマンス性をより高め、ポルシェならではの刺激的なエクスペリエンス

を提供します。718Tはワインディングロードでその本領を発揮し、純粋なドライビングプレジャーを提供すること究極の目的とするモデルです。必要不可欠な装備を搭載したこのピュアなドライビングマシンは、1968年に登場した911Tと1987年の911カレラ クラブスポーツの再来ともいえるモデルです。

新型マカンSもジュネーブでデビューを飾ります。ポルシェでは、デザイン、快適性、接続性、ドライビングダイナミクスの面からマカンを総合的にアップグレードしました。このコンパクトSUVの後姿には、立体的な造形のLEDライトパネルに特徴的なポルシェのデザインDNAが認められます。LEDテクノロジーはヘッドライトにも標準採用されています。室内で最も人目を引く装備が、新型ポルシェ コミュニケーション マネジメントシステム(PCM)の10.9インチタッチスクリーンと、配置とデザインが改められたエアベント、そして911モデルでも馴染みのオプションのGTスポーツステアリングホイールです。PCMは、インテリジェントボイスコントロールや標準オンラインナビゲーションなどの新しいデジタル機能へのアクセスを提供します。さまざまな快適装備には、トラフィックジャムアシスト、イオナイザー、ヒートッドウィンドスクリーンなどが含まれます。マカンSは、ツインスクロールターボチャージャーをセンターに配置した排気量3リッターの新型V6エンジンを搭載します。このエンジンは最高出力260kW(354PS)と最大トルク480Nmを発生します。そして7速デュアルクラッチトランスミッション(PDK)とポルシェトラクションマネジメントシステム(PTM)4輪駆動システムが、新しいエンジンの性能をフルに引き出します。

スイスでのポルシェの販売：明らかなハイパフォーマンス嗜好

ポルシェがジュネーブモーターショーに初めて出展したのは、今から70年以上も前の1949年のことです。ロートクロイツに本拠を構えるポルシェ スイスAGは、2018年度は3,350台のポルシェを販売しました。ハイパフォーマンスモデル嗜好が強いことが特筆されます。前年と比べると、911は10%以上増の962台となり、そのうちの56%をターボ/ターボSモデルが占めています。2018年にスイスで最も売れたモデルは、1,068台のマカンでした。市場に導入された2014年以降、スイスでのマカンの販売台数はトータルで7,035台に達しました。パナメーラでは、パフォーマンス重視のハイブリッドテクノロジーが大きな支持を得て、2018年度のパナメーラの販売におけるプラグインハイブリッドモデルの比率が59%にまで高まりました。20%を占めていたのが最上位機種のパナメーラ ターボS E-ハイブリッドでした。

オープントップのシーズン開幕に向けて、 新型911カブリオレが登場

1981年のフランクフルトモーターショーで発表された初代911カブリオレのプロトタイプは、即座にポルシェの顧客やファンの心を虜にしました。911初のオープントップモデルは翌1982年に生産開始となって以来、常にモデルラインナップの一角を占めています。今回登場する911カブリオレはクーペモデルの革新装備をすべて搭載しているとともに、これまで以上に素早くルーフを開閉できる新技術の油圧システムなど、カブリオレ専用の先進装備も備えています。

この新型モデルはクーペモデルのモダンな曲線を踏襲すると同時に、カブリオレのポルシェ911ならではの見まがうことのない美しい姿を維持しています。ソフトトップにはガラス製リアウィンドウが段差なしに装着され、マグネシウム合金製の大型の骨組みが高速走行時にトップの膨らみを抑えます。このソフトトップは最大50km/hで走行中でも開閉が可能です。新開発の軽量なルーフモーターにより、オープンの所要時間は約12秒にまで短縮されました。また電動ウィンドディフレクターが2秒で展開して、巻き込む風から乗員の首回りを守ります。

911カブリオレは当初、後輪駆動のカレラSと4輪駆動のカレラ4Sに導入されます。どちらも排気量2,981ccの6気筒ボクサーエンジンを搭載し、331kW(450PS)／6,500rpmと530Nm／2,300～5,000rpmを発生します。インジェクションプロセスの改良により排出ガスが低減し、ターボチャージャーとチャージエアクーリングシステムのレイアウトの見直しなどによって効率性も高められています。そのパワーは新開発の8速デュアルクラッチトランスミッションによって伝達されます。911カレラSは0-100km/h加速を3.9秒で達成し(オプションのスポーツクロノ パッケージ装備車は3.7秒)、最高速度は306km/hに達します。いっぽう911カレラ4Sは、トップスピードは304km/h、0-100km/h加速は3.8秒(オプションのスポーツクロノ パッケージ装備車は3.6秒)を記録します。

エンジン搭載位置の変更により、新型カブリオレは先代モデルに比べて、ねじれ剛性がさらにアップしています。また911カブリオレとしては初めて、ポルシェ アクティブサスペンションマネジメント(PASM)スポーツシャシーが提供されます。通常よりも硬く短いスプリングが使用され、前後アクスルのクロススタビライザーがより剛性の高いものになり、シャシー全体が10mm低く設定されます。こうした調整と重量配分の改善により、この911は路上において、これまでよりもナチュラルなフィールを示します。

初期911の要素を受け継ぐエクステリアデザイン

新型911カブリオレは、先代モデルに比べてよりワイドで、より堂々とした印象と力強さを感じさせる姿をしています。張り出しが増したホイールアーチが、フロント20インチ、リア21インチのホイールを覆っています。後輪駆動モデルのボディ幅は、既存の4輪駆動モデルと同じになりました。リアトレッドは44mm拡大しています。45mm拡幅されたフロントエンドには初期世代の911の伝統的な特徴がよみがえり、ボンネットが前方に引き延ばされ、ウィンドスクリーンの前方に特徴的な窪みが付いています。この2つのデザイン要素が車両のフロントを伸びやかに見せ、躍動感を与えています。

どのモデルでもリアエンドをひととき印象付けているのが、横幅が増した可変ポジションスポイラーと、切れ目なくつながる優雅なライトバーです。ソフトトップ、フロントセクションとリアセクションを除いたボディ全体の外側パネルはアルミニウム製になっています。

すっきりとしたラインで再デザインされたインテリア

インテリアは、すっきりとした直線と計器類が収まる窪みで構成されたダッシュボードが特徴的です。初代911と同様に、新しいダッシュボードは横幅いっぱい広がる2本の水平ラインを基調としたデザインを採用しています。センターに置かれたレブカウンター脇にはフレームレスのディスプレイが2つ並び、必要な情報をドライバーに届けます。10.9インチに拡大されたポルシェ コミュニケーション マネジメントシステム (PCM) のセンタースクリーンは、素早い操作が可能で運転の妨げになりません。

安全性と快適性を高める洗練された運転支援システム

世界で初めて、ポルシェはウェットモードを開発し、それを標準装備としました。この機能は路面の水を検出すると、コントロールシステムを事前に調整し、ドライバーに警告を発します。それを受けてドライバーはボタンを押すか、ステアリングホイールのモードスイッチ (スポーツクロノ パッケージ装備車) を使用して、車両を安定性にフォーカスした状態に設定することができます。カメラ映像に基づいて機能する警告およびブレーキシステムも標準装備し、他の車両、歩行者、自転車と衝突する危険性を察知して警告を発し、必要に応じて緊急のブレーキ操作を実行します。リアビューカメラを含むパークアシストシステムも標準装備しており、このカブリオレの安全性をいっそう高めています。さらにオプションとして、赤外線カメラを用いたナイトアシスト、アダプティブクルーズコントロール (自動車間距離制御機能付き)、ストップアンドゴー機能、リバーシブル乗員保護システムも用意しています。

911カレラS カブリオレの販売価格は134,405ユーロから、911カレラ4S カブリオレは142,259ユーロからとなります(付加価値税を含む、ドイツ国内仕様)。

新型ポルシェ718T - そぎ落としした装備で最大限のドライビングプレジャーを提供

この718Tで、ポルシェは1968年に登場した911Tの純粋なデザインを現代の2シータースポーツカーに再現しました。このボクスターおよびケイマン シリーズのニューモデルは、4気筒ボクサーエンジンの220kW(300PS)の最高出力と、エモーショナルなポルシェのドライビングエクスペリエンスを融合させています。718Tは、さまざまな装備パッケージによって、そのハイパフォーマンス性が高められています。例えば、20インチ アロイホイールや、20mm低められたPASMスポーツシャシー (PASMと2リッターターボチャージドエンジンと組み合わせがこのシリーズに導入されるのはこれが初めてです)、レッドのシフトパターンが刻まれた短いストロークのギアシフト、スポーツクロノ パッケージなどです。こうした装備は、718Tのベーシックなエンジンとの組み合わせでしか利用できないものです。ポルシェでは、ボクスターとケイマンの両モデルに6速マニュアルトランスミッションとポルシェトルクベクトリング(PTV)、機械式リアアクスルディファレンシャルロックを装備しました。また、ポルシェ デュアルクラッチトランスミッション(PDK)もオプションで装着可能です。

伝統的に「T」の記号はポルシェのモデルにおいて「ツーリング」を表し、純粋な形でのドライビングプレジャーと同じ意味を持っています。718Tはワインディングロードでその本領を発揮し、純粋なドライビングプレジャーを提供することを究極の目的とするモデルです。そのフィロソフィーを体現しているのが、そぎ落とされた装備です。ドアパネルにはハンドルの代わりにブラックのドアプルが備わり、スポーツシートは電動2-way調整機能付きで、センターセクションにブラックのSport-TEX素材を使用、ヘッドレストに「718」のロゴが刺繍されています。

ポルシェ コミュニケーション マネジメントシステム(PCM)モジュールも省かれて、その場所には大型の収納コンパートメントが収まっています(顧客の好みによりエンターテインメントシステムは無償で装備可能です)。こうした手段により、ガソリンパーティキュレートフィルタ(GPF)の装着のために増加した分の重量をバランスさせています。

室内では、スポーティなタッチによって718Tの個性が強調されています。モードスイッチ付きで、直径360mmのGTスポーツステアリングは確実なグリップを約束します。ブラックのメータパネルは、ホワイトの「ボクスターT」または「ケイマンT」のロゴで飾られ、インストルメントパネルとセンターコンソールはグロスブラックのトリムで仕上げられています。ドアエントリーストリップにも「ボクスターT」または「ケイマンT」のロゴが掲げられています。

ポルシェ718Tのエクステリアを特徴づけているのが、その力強い外観です。艶やかなチタニウムグレーに塗られた20インチのアロイホイールと20mm低められたPASMスポーツシャシーの組み合わせが、路上で強い存在感を放ちます。また、アゲートグレーのミラーシェルと、ボディサイドの「718ボクスターT」または「718ケイマンT」のロゴによって差別化が図られているほか、その後姿も、センター2本出しでブラックとクロームめっき仕上げのスポーツエグゾーストによって見分けることができます。エクステリアカラーはブラック、インディアンレッド、レーシングイエロー、ホワイトのソリッドカラーと、カレラホワイト、ディープブラック、GTシルバーのメタリックカラーから選択できます。また特別色として、ラーヴァオレンジとマイアミブルーも用意されます。718Tは、同等の装備を装着したベーシックモデルよりも5～10%低い価格で購入できます。

220kW(300PS)を発生するターボチャージド水平対向エンジンは、ポルシェ718Tを力強く加速させ、最大7,500rpmまで回ります。この2リッター4気筒ターボエンジンは最大トルク380Nm／2,150rpmを発揮し、空車重量1,350(PDKモデルは1,380)kgの車体を引っ張ります。4.5(4.6)kg/PSという優れたパワーウェイトレシオのおかげで、0-100km/hの加速タイムは5.1(4.7)秒を記録します。最高速度は275km/hに達します。

718Tに標準装備されるスポーツクロノ パッケージは、“Normal”、“Sport”、“Sport Plus”および“Individual”の各ドライビングモードを提供し、ドライバーはそれをステアリングホイールのモードスイッチで選択することができます。“Sport”および“Sport Plus”では、エンジンマネジメントシステムとスロットルの作動特性がよりスポーティになり、マニュアルトランスミッションでギアを落とすときにオートマチックデュアルクラッチ機能がドライバーをサポートします。また“Sport Plus”では、ポルシェ アクティブサスペンション マネジメント(PASM)とポルシェ アクティブドライブトレインマウント(PADM)アダプティブボディポジショニング、オプションのポルシェ デュアルクラッチトランスミッションがよりスポーティな設定になり、718Tのハンドリングにいっそう磨きがかかります。PDKとの組み合わせでは、ローンチコントロール機能が利用可能となり、モードスイッチの中央にスポーツレスポンススイッチも備わります。

このモードの特別な機能のひとつが、ダイナミックギアボックスマウントです。このPADMシステムはエンジン/ギアボックス エリアの振動を最小化するとともに、ドライブトレイン全体の重さがドライビングダイナミクスに影響を及ぼす可能性のある動きを抑制します。これはハードなギアボックスマウントとソフトなギアボックスマウントの長所を併せ持っており、荷重変化時と高速コーナリング時のドライビング挙動がより正確で安定したものになります。荒れた路面での快適性維持にも寄与します。

ポルシェ 718ケイマンTの販売価格は63,047ユーロから、718ボクスターTは65,070ユーロからとなります(付加価値税を含む、ドイツ国内仕様)。この新型モデルは、欧州28か国および同じ基準が適用される市場において注文を受け付けています。

新型マカンS：最新のコネクティビティシステム、リファインされたデザイン、さらに充実した機能

ドライビングダイナミクスは依然としてマカンの核となる魅力です。刷新されたシャシーは、より自然なレスポンスを確保し、同時にこれまで同様の安定性と向上した快適性を提供することで、ドライビングプレジャーを高めています。新型でも、マカンはこのセグメントでは異例ともいえる前後で異なるサイズのタイヤを装着しています。ポルシェのスポーツカーと同様、これによりインテリジェントな4輪駆動システム、PTMのドライビングダイナミクスの強みをフルに引き出すことができます。パフォーマンス特性が改良された新開発のタイヤのおかげで、横方向のダイナミクス性能も向上しています。

特徴的なブランドスタイルのLEDテールライトパネル

リアエンドは従来モデルのクリアなデザインをベースに刷新されました。ひと目でポルシェとわかる特徴的なデザイン要素が、3つのパートから構成される三次元的な造形のLEDパネルです。これが2つのテールライトクラスターを互いに結んでいます。このライトパネルには立体的な「PORSCHE」ロゴが掲げられています。テールゲートを飾るこの新しいデザインのテールライトの輪郭により、車両に伸びやかな印象が生まれ、高さが低く感じられ、横幅が強調されて見えます。視覚的な重心位置が下がることで、ドライビングダイナミクスの向上をさらに示唆するスタイリングとなっています。4灯式のブレーキライトもブランドのアイデンティティを反映しています。エグゾーストシステムのテールパイプはリアエプロンに溶け込むように一体化され、下側に回り込んでリアエンドにも躍動感を与えています。

新型PCMの装備と広くなった印象で、高級感あふれる室内

新型ポルシェ コミュニケーション マネジメントシステム (PCM) の装備により、マカンはデジタル ポルシェ ワールドがもたらすあらゆる可能性を手にすることができます。フルHDのタッチスクリーンは7.2インチから10.9インチに拡大されました。パナメーラやカイエンと同様に、ユーザーインターフェースは四角いアイコンを使って好みに応じたレイアウトに設定できます。充実した接続機能を標準装備した新しいシステムが、さらに進化したオンラインナビゲーションとポルシェコネクトプラスを提供します。ここでは「Here Cloud」と呼ばれるナビゲーション情報サーバーへの接続が重要な役割を果たします。これにより、常に最新のオンラインデータに基づいた最速ルートの計算を行うことができます。他のサービスと機能には、FM/DAB/オンライン間の自動切替え付きウェブラジオ、インテリジェントな音声操作システム「ボイスパイロット」、セキュリティと緊急サービス関連のリモート機能などが含まれます。ポルシェ コネ

クト アプリとポルシェ カー コネクト アプリにより、ドライバーはマカンとスマートフォン間で通信を行うことができます。オフロードプレジジョン アプリは、マカンでのオフロード体験をさらにエモーショナルなものにし、ドライビングを記録に残すことができます。

新型マカンには、機能が強化された各種アシスタンスシステムを含むさまざまなオプションが多数用意されています。オプションのGTスポーツステアリングは、ポルシェ911との結びつきを示しています。このステアリングホイールに一体化されたモードスイッチ（およびスポーツレスポンススイッチ）は、マカンにも装着可能なオプションのスポーツクロノ パッケージの一部を構成するものです。トラフィックジャムアシストはアダプティブクルーズコントロールを使用して、65km/hまでの速度でリラックスしたドライビングをお届けします。この新しいシステムでは、ステアリングを自動的に操作して車線を維持することが可能です。

ターボをセンターに配置した新型V6エンジン

ポルシェではマカンSに新開発のV型6気筒エンジンを搭載しました。このターボチャージドエンジンは3リッターの排気量から最高出力260kW(354PS)と最大トルク480Nmを発生します。出力は従来モデルに比べて10kW(14PS)増大しました。これにより、スポーツクロノ パッケージ装着車の0-100km/hの加速タイムはコンマ1秒短縮されて5.1秒となり、最高速度は254km/hに達しています。

このマカンSの6気筒エンジンは、さまざまなハイテクを採り入れたパワーユニットです。パナメーラで初導入された後、カイエンにも積まれたこのエンジンが今回、マカンにも搭載となりました。最も目を引く特徴は、シングルターボチャージャーがV字の内側に置かれたセンターターボレイアウトです。これにより燃焼室とターボチャージャー間の排気ガス経路を短くすることで、レスポンスが向上し、ダイナミックなドライビングスタイルの達成にも寄与しています。

また、新型ターボチャージャーはツインスクロールテクノロジーを採用したもので、独立した2つの流れによって排気ガスが途切れることなくタービンホイールに送り込まれるため、過給システムの欠点が大幅に軽減されています。燃焼室の形状も改良され、中央にインジェクターを配置することで、より効率よく混合気を生成することができるようになりました。排気量1リッターあたりの出力が113PSから118PSに増大しているほか、排出ガスもクリーンになっています。サイクルごとに最大3回の噴射を行って燃焼を最適化し、排気ガス中の窒素酸化物を削減しています。

ポルシェ マカンSの販売価格は58,763ユーロからとなります(付加価値税を含む、ドイツ国内仕様)。

※全てのモデルで、仕様は国により異なることがあります。